

庄原市民会館・庄原自治振興センターの
整備に関する検討結果報告書

平成 30 年 10 月

庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会

目次

I	はじめに	1
II	庄原市民会館と庄原自治振興センターの現状と課題	2
1	庄原市民会館	2
(1)	現状	2
(2)	課題	2
2	庄原自治振興センター	2
(1)	現状	2
(2)	課題	2
III	庄原市民会館と庄原自治振興センターに関する調査	3
1	市民アンケート・高校生アンケート	3
(1)	調査の目的	3
(2)	調査対象	3
(3)	実施期間	3
(4)	実施方法	3
(5)	回答数（回収率）	3
(6)	アンケート内容	4
(7)	アンケート結果の分析	4
2	関係者からの意見聴取及びアンケート調査	6
(1)	意見聴取及びアンケート調査の概要	6
(2)	庄原市民会館指定管理者	6
(3)	庄原自治振興センター指定管理者	6
(4)	庄原市民会館利用団体	7
(5)	庄原自治振興センター利用団体	7

IV	検討委員会の取り組み	8
1	会議の開催及び内容	8
2	意見交換等の内容	9
(1)	アンケートの内容等	9
(2)	庄原市民会館・庄原自治振興センターの機能（役割）	9
(3)	庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法	10
(4)	庄原市民会館の改修	10
(5)	庄原自治振興センターの改修	11
V	検討結果	12
1	庄原市民会館が今後果たす役割（機能）	12
2	庄原自治振興センターが今後果たす役割（機能）	12
3	庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法	12
4	庄原市民会館・庄原自治振興センターの改修内容	12
(1)	共通事項	12
(2)	庄原市民会館の改修	13
(3)	庄原自治振興センターの改修	13
VI	おわりに	15

【付属資料編】

資料1	庄原市民会館・庄原自治振興センター平面図	1
資料2	市民アンケート前段説明	3
資料3	市民アンケート設問と結果	9
資料4	高校生アンケート前段説明	17
資料5	高校生アンケート設問と結果	23
資料6	庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会設置要綱	32
資料7	庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会委員名簿	34

I はじめに

庄原地域の中心市街地（以下、「庄原市街地」という。）には、市役所本庁舎をはじめ多様な公共施設等を整備してきたが、これらの中には、整備完了から相当年数が経過し、老朽化に加え、建設当時の機能が現在の利用者ニーズに十分に対応できない状況がある。

なかでも、庄原市民会館と庄原自治振興センターは、一体的な建物で庄原市街地では最も大規模な施設であるが、整備完了から40年以上が経過し、これまで大規模な改修を実施していないため、利用者等から施設整備を望む声が寄せられている。

その他、公共施設等が分散しているなどの課題もあり、将来の庄原市街地における機能強化や公共施設等の最適な配置などを含め、総合的な検討が求められている。

本検討委員会は、こうした現状を踏まえて、まず最初に、今後の市政に大きな影響を与えることとなる、庄原市民会館及び一体的施設である庄原自治振興センターの整備の方向性について検討することとした。

平成29年9月から7回にわたる委員会において、アンケート調査、関係者からの意見聴取等を通じて、慎重に議論を重ねてきた。

このたび、庄原市民会館、庄原自治振興センターの整備に関する検討結果をまとめたので、ここに報告する。

Ⅱ 庄原市民会館と庄原自治振興センターの現状と課題

1 庄原市民会館

(1) 現状

芸術・文化活動の拠点施設として利用されており、NPO 法人庄原市芸術文化センターを指定管理者として管理委託している。926 席の大ホール、ロビー、楽屋、集会室、視聴覚室、研修室 F がある。平成 29 年度の利用者は、30,742 人となっている。

(2) 課題

施設全般に老朽化や経年劣化が進んでおり、近年多額の維持修繕費を要している。

ホールの空調設備の不調や座席まわりの狭さ、トイレの洋式化など、施設の改善要望の声が寄せられており、舞台設備についても文化施設の拠点としての改善が望まれている。

また、一体的な躯体をなす庄原自治振興センターとの境界部分等に耐震性が一部不足していることが判明し、耐震改修工事が必要となっている。

2 庄原自治振興センター

(1) 現状

住民自治活動、生涯学習活動の拠点として利用されており、庄原自治振興区を指定管理者として管理委託している。研修室 A・B（和室）、研修室 C・D・E（和室）、研修室 G、2 階会議室、談話室、実験実習室がある。平成 29 年度の利用者は、12,331 人となっている。

(2) 課題

施設の老朽化・バリアフリー化に加え、地域住民の生涯学習活動、文化活動のための会議室や多目的なパブリックスペースが不足しており、庄原自治振興区から増床を含めたセンター改修の要望書が提出されている。

また、一体的な躯体をなす庄原市民会館との境界部分等に耐震性が一部不足していることが判明し、耐震改修工事が必要となっている。

Ⅲ 庄原市民会館・庄原自治振興センターに関する調査

1 市民アンケート・高校生アンケート

(1) 調査の目的

庄原市街地の公共施設のあり方を検討するにあたり、最も大規模な施設であり、他の施設の整備の方向性に大きな影響を及ぼすことから、「庄原市民会館」に対する市民の意識や利用ニーズを把握し、今後の整備の方向性の参考とする。

(2) 調査対象

①市民アンケート

全市を対象に、年齢階層、性別及び居住地域のバランスを考慮して無作為に2,000人を抽出した。

②高校生アンケート

市内の高校（庄原格致・庄原実業・西城紫水・東城）に通学する2年生全員、282人を対象に、各学校へ依頼した。

(3) 実施期間

平成30年1月9日～平成30年1月26日

(4) 実施方法

①市民アンケート

調査対象者にアンケート用紙を郵送し、料金受取人払による返信用封筒で回収。回答は無記名による。

②高校生アンケート

調査対象校にアンケート用紙を持参し、学校が指定する任意の時間で実施。回答は無記名による。

(5) 回答数（回収率）

①市民アンケート 回答数：869通 回収率 43.5%

②高校生アンケート 回答数：253通 回収率 89.7%

(6) アンケート内容

①市民アンケート…付属資料2のとおり

- 前段説明において、市の人口推移、財政状況（借入金と今後の財政推計）、市の公共施設全体の状況並びに庄原市民会館の施設別利用状況等を説明した。
- 調査票において、過去5年間の利用の有無、現在の庄原市民会館に対する感想、今後庄原市民会館が果たす役割、必要座席数、今後の整備に対する考え、庄原市民会館以外の公共施設の整備についてなど、合計12問とした。

②高校生アンケート…付属資料3のとおり

- 市民アンケートに比べ、前段説明は文書を分かりやすくし、調査票は、年齢に関する問を削除し、選択肢を高校生用（利用目的に学校行事を追加するなど）に変更して、合計11問とした。

(7) アンケート結果の分析

①庄原市民会館の利用者と未利用者について

市民アンケートにおいて、過去5年間における市民の庄原市民会館を利用した人の割合は50.9%、未利用者の割合は45.0%となった。このことにより、利用者（ユーザー）の意見だけではなく、未利用者（オーナー）の意見も尊重する必要があると考える。

高校生アンケートにおいては、学校行事での利用もあるため、利用者の割合は95%であった。

②今後の整備について

利用者、未利用者、高校生全てにおいて、他の場所への移転等は希望せず、現在の建物を改修すべきとの意見が7割を超えている。このことにより、現地での改修を実施すべきであると考えられる。

③改修の規模について

利用者：「大規模改修する」	38.0%
「耐震補強して壊れた箇所を随時修繕していく」	36.9%
未利用者：「耐震補強して壊れた箇所を随時修繕していく」	43.2%
「大規模改修する」	25.3%
高校生：「耐震補強して壊れた箇所を随時修繕していく」	39.1%
「大規模改修する」	35.6%

「耐震補強して壊れた箇所を随時修繕していく」という意見は、「できるだけ改修費用を抑えるべきである」と捉えられる。利用者と未利用者及び高校生の差を考慮し、改修規模、費用等を慎重に判断する必要がある。

④改修の内容について

利用者、未利用者、高校生全てにおいて、主な意見として、ホールの座席、トイレ、和室、ロビーの暗さを改修してほしいとの意見が多いため、これらを中心に改修すべきであるとする。いずれにせよ、耐震補強工事は必須である。

⑤ホールの座席について

利用者、未利用者、高校生全てにおいて、現在の座席は、幅が狭くて座りごちが悪いという意見が多く、また、今後整備する場合の座席数は、現在と同程度確保してほしいという意見が多い。

一方で、現在の建物を改修すべきとの意見は7割を超えており、これは、現在の建物のままでの改修を意味していると考えられる。

現在の建物、ホールを現在の大きさのまま、同じ席数を確保した上で、席幅を広くし、座りごちをよくするという考えは矛盾しており、全ての希望を叶えることは不可能である。

⑥今後充実していくべき庄原市民会館・庄原自治振興センター以外の公共施設について

市民アンケートにおいて、利用者、未利用者ともに医療施設の充実を希望する意見が最も多い。利用者の38.2%、未利用者においては57.5%が希望している。

その他について、利用者は、文化施設が27.8%、集会施設が27.4%となっており、庄原市民会館、自治振興センターへの関心が高いことがわかる。

未利用者は、子育て支援施設が28.1%、保健・福祉施設が26.3%となっており、利用者とは別の傾向がある。

このような利用者、未利用者の意見のバランスも考慮した上で、今後の整備を考える必要がある。

高校生アンケートにおいては、スポーツ施設の充実を希望する意見が28.9%で最も多く、観光交流施設が26.1%で続いた。

⑦アンケート結果から考えられる方向性

○現在の建物を耐震改修し活用していく。

○建物の利用は耐用年数を迎える年までを想定し、おおむね20～25年後を見据えた改修を行っていく。

○改修については利用者の意見により、ホールの座席、トイレ、和室の洋室化、ロビーを中心に改修するが、庄原市民会館の未利用者の意見は「耐震補強して壊れた箇所を随時修繕していく」という意見が多く、できるだけ改修費用を抑えた改修を行う。

○改修については、できるだけ効果的な改修となるよう利用者・管理者の意見を聞きながら改修箇所・改修内容等を決定していく。

2 関係者からの意見聴取及びアンケート調査

(1) 意見聴取及びアンケート調査の概要

平成 30 年 2 月と 3 月に、両施設の指定管理者及び庄原市民会館利用団体 13 団体と庄原自治振興センター利用団体 9 団体へアンケートを依頼した。

その中から、両施設の指定管理者と、両施設の利用回数が多く、意見聴取に応じていただいた 6 団体から意見聴取を行った。

また、平成 30 年 8 月には、再度、両施設の指定管理者及び庄原市文化協会から意見聴取を行った。

なお、平成 30 年 2 月と 3 月の意見聴取は、関係者から率直な意見をいただくため、非公開で実施した。

主な意見は、(2) 以降のとおりである。

(2) 庄原市民会館指定管理者

○築 40 年を経過しているため、屋上陸屋根の防水や窓枠が老朽化し、雨漏りが頻繁に発生しており、また、設備全体も老朽化が著しい。

○庄原市の芸術・文化の拠点として、より快適に芸術鑑賞できる環境を整えるべきである。

○現在の好立地を考えると、今の建物を大規模改修すべきである。

○ホールは、質の高い舞台芸術を誘致して鑑賞するために、現在の座席数は維持すべきであり、また、音響設備等の改修は必要である。

○中ホールを建設すれば、市民の利活用も多くなり、芸術・文化の発展に貢献できる。

(3) 庄原自治振興センター指定管理者

○庄原自治振興区の活動拠点であり中心市街地にあることから、市内全域から利用されているが、施設の老朽化が進み、施設用途が現在のニーズにマッチしていない。

○33 の自治会があり、役員会や総会等、会議スペースを確保できない現状がある。

○指定避難所となっているが、今のままでは狭い。

○現在地での大規模改修、そして 1 階はコミュニティスペースや事務室など、2 階はフラットにもなる 200 名程度の中ホールの増設を要望する。

○既存施設である研修室 C・D・E (和室) の洋室化、既存事務室の防音室化、40 名程度の会議室の新設等を要望する。

(4) 庄原市民会館利用団体

- 現在のホールの音響は、良いという意見と悪いという意見、両方ある。
- トイレに関しては、洋式希望が多いが、和式を一部残して欲しいという意見もある。
- 現在同様、市民の多様な芸術・文化活動の発表の場とすべき意見が多く、現在地での大規模改修への支持が多い。
- ホールの希望席数は、600～800席程度が多く、座席を減らしても席幅を確保して座りごこちを改善して欲しい意見が多い。
- カフェ、談話スペースの設置、音楽専用室への改修希望がある。

(5) 庄原自治振興センター利用団体

- 備品や設備への不満が多く、トイレの洋式化を望む意見が多い。
- 現在地での大規模改修への支持が多い。
- 和室の洋室化希望が多い。

IV 検討委員会の取り組み

1 会議の開催及び内容

【平成 29 年度】

第 1 回検討委員会（平成 29 年 9 月 27 日）

- 委員委嘱状交付
- 委員長及び副委員長の選出
- 検討委員会の進め方等、委員会設置趣旨の確認
- 庄原市街地における公共施設の現状と課題、今後のスケジュールの確認
- 意見交換
- 現地視察

第 2 回検討委員会（平成 29 年 12 月 7 日）

- 庄原市民会館・庄原自治振興センターの利用状況等の確認
- 庄原市民会館のあり方アンケートに対する意見交換
- 今後のスケジュールの確認

第 3 回検討委員会（平成 30 年 2 月 16 日）

- 非公開とすることの是非の確認
- 指定管理者・庄原市民会館利用団体からの意見聴取
- 第 4 回検討委員会の開催日程の確認

第 4 回検討委員会（平成 30 年 3 月 23 日）

- 非公開とすることの是非の確認
- 庄原市民会館利用団体・庄原自治振興センター利用団体からの意見聴取
- 意見聴取しない利用団体のアンケートの確認
- 市民・高校生アンケート結果の確認
- 意見交換

【平成 30 年度】

第 5 回検討委員会（平成 30 年 7 月 18 日）

- アンケート結果の分析の確認
- 庄原市民会館・庄原自治振興センターを改修と想定した場合のプランについての確認
- 今後のスケジュールの確認
- 意見交換

第6回検討委員会（平成30年8月20日）

- 指定管理者・庄原市民会館利用団体からの意見聴取
（庄原市民会館指定管理者・庄原自治振興センター指定管理者・庄原市文化協会）
- 庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備についての意見交換
- 第7回委員会開催日程及び今後のスケジュールの確認

第7回検討委員会（平成30年9月26日）

- 庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備について意見発表と集約
- 今後のスケジュールの確認

2 意見交換等の内容（文末の【 】は開催回を示す）

（1）アンケートの内容等

- 公共施設等総合管理計画や長期総合計画の作成等で、市の現状、アンケート結果等広報しているはずだが、なかなか自分に関係ない部分は、市民に浸透していない。現在の建物や財政の状況を提示してアンケートを実施すべき。【第1回】
- 庄原市民会館に関する情報提供について、内容が偏らないようにすべきであり、それにより答えを誘導しないようにすべき。【第1回】
- アンケート前段説明について、今後人口も収入も減り、施設の維持費は多くかかるなど、マイナス面を強調しすぎではないか。庄原市民会館の利用状況は悪くなく、必要とされている。【第2回】
- 厳しい数字が並ぶが、こういった現実を示すことで市民が危機感を持つことは大切。ただ、もう少し良い面を示すべき。【第2回】
- 高校生にはもう少し分かりやすくすべき。【第2回】
- 指定避難所に対する耐震補強に関する記述をきちんと記載すべき。【第2回】
- 座席への不満がある方が、座席数をどのように考えているのかなど、細かな集計（クロス集計）をすべき。【第4回】

（2）庄原市民会館・庄原自治振興センターの機能（役割）

①庄原市民会館について

- 庄原市の芸術・文化の拠点であることは間違いないが、元中央公民館の機能（貸館機能）は、庄原市民会館、庄原自治振興センター両方混在している。庄原市民会館と庄原自治振興センターの機能をはっきり分けるべき。【第6・7回】
- はっきり分けることで、庄原自治振興区の活動に弊害が出るかもしれない。ただし、貸館機能の受付窓口の一本化は必要ではないか。【第7回】

②庄原自治振興センターについて

- 庄原市全体の各自治振興区をまとめるセンター機能を、中央にある庄原自治振興区が持つべきである。【第6・7回】
- 庄原自治振興区は、庄原自治振興区内の活動を考えるべきで、市全体のセンター機能は、庄原市自治振興区連合会である。【第7回】
- 元中央公民館の機能（貸館機能）は、庄原市民会館、庄原自治振興センター両方混在している。庄原市民会館と庄原自治振興センターの機能をはっきり分けるべき。【第6・7回】（再掲）
- はっきり分けることで、庄原自治振興区の活動に弊害が出るかもしれない。ただし、貸館機能の受付窓口の一本化は必要ではないか。【第7回】（再掲）

（3）庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法

- 移転改築はなかなか難しく、現在地での改修となると思うが、その場合、全ての要望に答えることはできず、取捨選択が必要となる。【第4回】
- 他の市街地の公共施設を含め、どの施設がどの機能を持つか、分担が必要である。【第4回】
- 現在地での改修と想定した場合の改修プランを提示してもらわないとなかなか議論が進まない。【第4回】
- アンケートを見ても、今の段階での建替えは望まれていない。今あるものを使えるところまで使うという考えが多い。【第5回】

（4）庄原市民会館の改修

①ホールの座席について

- 三次の「きりり」のような1,000席程度のものを整備しても意味は無い。ものすごくゆったりとした席にするなど、特長を出すべき。【第3回】
- 現在地において、席幅は広くして同じ席数を確保して欲しいという意見が多いが物理的に不可能である。ここをどのように考えるか。【第4回】
- 現状の席数を維持するのか、席数を減らして座りごちを改善するのか、中央通路よりステージ側は席数を減らし座席幅を広くする、後方は席幅、席数は同じで座席のみ取替えによって座りごちを改善するなどの選択肢がある。【第5回】

②トイレについて

- 各階に多目的トイレを設置すべき。【第7回】
- ウォシュレットをつけるべき。【第6・7回】

③ロビーについて

○気軽に立ち寄ることができる交流スペースがあればよい。【第3・4回】

④舞台装置等について

○委員会の検討事項ではないが、現状を聞く限り、最低限必要なものは整備すべき。
【第7回】

⑤その他

○ハード面から考えるのではなく、どのような機能を持たせるか、ソフト面を考えた上で、ハード面を考えるべき。【第1・7回】

○ホールについて、中間所にシャッターなどを設置して中ホール化できるようにする。【第3回】

○庄原市民会館と庄原自治振興センターの事務室は位置を交代すべきではないか。
【第7回】

(5) 庄原自治振興センターの改修

①和室の洋室化について

○全ての和室を洋室化するのではなく、一部はそのまま残す方がよい。【第6回】

②中ホールの建設について

○保健センターやふれあいセンターにもフラットなホールはあるので、そちらを共用すべき。【第3回】

○集会室の管理を庄原市民会館から庄原自治振興センターに変更すれば、中ホールは建設しなくても良いのではないか。【第6回】

○庄原自治振興区が望まれているのは、中ホールというより、フラットな大会議室をイメージした方が理解しやすいのではないか。【第6回】

③その他

○他の自治振興センターと比較して、今回の要望が妥当なのかどうか。【第3回】

○現在地ではなく、他の場所へ移転することを考えてはどうか。【第3回】

○避難所機能のことも考えて議論すべきだが、収容人員等まで考えての議論は難しい。【第6回】

○庄原市民会館と庄原自治振興センターの事務室は位置を交代すべきではないか。
【第7回】(再掲)

V 検討結果

平成 29 年 9 月から 7 回にわたる委員会において、アンケート調査、関係者からの意見聴取による調査、各委員による議論等を通じた本検討委員会の検討結果は、以下のとおりである。

1 庄原市民会館が今後果たす役割（機能）

庄原市の芸術・文化活動の拠点として、市民の文化の向上及び住民福祉の増進を果たす役割を担う。また、庄原自治振興センターと共に、庄原市全体への貸館機能を担う。

2 庄原自治振興センターが今後果たす役割（機能）

庄原自治振興区内において、協働のまちづくりをめざし、住民自治活動の充実を図るため、庄原自治振興区等の主体的な地域づくり活動並びに生涯学習等の拠点としての役割を担う。また、庄原市民会館と共に、庄原市全体への貸館機能を担う。

【付帯事項】

10～20 年後を見据えれば、庄原市全体の各自治振興区をまとめるセンター機能の更なる強化が必要であり、それを担う組織はどこになるのか、今の段階から検討すべきである。

3 庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法

現在地において、大規模改修を行う。

4 庄原市民会館・庄原自治振興センターの改修内容

(1) 共通事項

- ①耐震改修は必須である。
- ②20～25 年後を見据えた整備を行う。
- ③アンケートで不満が多かった箇所を改善する。
- ④高齢者や障害者の方々はもとより、多くの方々に使いやすい施設とする。
- ⑤利用者及び関係団体の意見を取り入れながら進める。
- ⑥未利用者の意見も尊重する。
- ⑦庄原市民会館と庄原自治振興センターの事務室を、駐車場がある南側玄関、または現在庄原市民会館事務室がある北側玄関を改修して、隣接する形となるよう検討する。
- ⑧庄原市民会館と庄原自治振興センターの施設管理区分の見直しを検討する。

【付帯事項】

20～25 年後には、庄原市民会館と庄原自治振興センターを建替えるのか、それともさらに建物の延命をするのか、人口動態や財政状況を見据えて、今の段階から検討すべきで

ある。

(2) 庄原市民会館の改修

①ホール座席について

- 中央通路よりステージ側を席幅 520 mm に広げ、後方は現在と同じ席幅 (440 mm) で座席の取替えのみで席数を 832 席とする改修を実施する。また、車椅子席の数を十分確保する。

②トイレについて

- 和式を一部残し、洋式トイレにウォシュレットを設置する。ただし、ウォシュレットの設置数については、導入コストやランニングコストを考慮する。
- 各階に多目的トイレを設置する。

③ロビーについて

- 照度の可変可能な LED 照明を導入する。
- カフェスペース等の市民が気軽に立ち寄れる場所の確保を検討する。

④舞台装置等について

- 本来、委員会での検討の範疇ではないが、音響や照明、舞台装置等専門家の意見を良く聞いた上で導入すべきである。ただし、大規模改修時にしか導入できないものと毎年度の予算で対応可能なものとに分け、効果的に改修する。

⑤その他

- 楽屋について、舞台出演者にとってより良い形で使いやすいものとなるよう、楽屋数も含め、検討した上で改修する。

(3) 庄原自治振興センターの改修

①和室の洋室化について

- 研修室 A・B は、和室としてそのまま残し、研修室 C・D・E は洋室に変更する。パーテーションにするかどうかについては、庄原自治振興区の意見をふまえて判断する。

②中ホール建設について

- 名称を「中ホール」から「多目的ホール」に変更し、予算に極力配慮し、整備を検討する。なお、可能な限り小コスト、省エネとなるよう、遊休施設の移築も検討する。整備場所は、北側緑地帯または東側庄原自治振興区駐車場が望ましい。

③その他

- 調理室や談話室等、現在使い勝手の悪い施設は、基本的に庄原自治振興区の意見を踏まえ、改修を検討する。
- 庄原市民会館との管理区分の見直しを踏まえ、事務室の移転や談話室 2 階部分への会議室の増築を検討する。

VI おわりに

本検討委員会は、庄原地域の中心市街地における公共施設の問題について、その中でも最も大規模な施設であり、今後の市政に大きな影響を与えることとなる庄原市民会館及び一体的施設である庄原自治振興センターの整備の方向性について検討してきた。

この過程において、市民の皆様や市内高校2年生の皆様、庄原市民会館・庄原自治振興センターの両指定管理者、また、両施設の利用団体の皆様から、アンケート調査、意見聴取等を通じて、貴重なご意見をいただき、議論を深めることができた。ご協力をいただいた皆様に、改めて感謝申し上げる次第である。

本報告書は、今後の庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備検討を行うための参考としていただき、市民にとって、より良い施設改修となることを期待する。

平成 30 年 10 月 29 日

庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会